



# 第32回アジア自転車競技選手権大会 第19回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

2012年2月8日～18日 マレーシア・クアラルンプール/プトラジャヤ



## シクリスムエコー No.188 2012年アジア選手権 特集号

### アジア選手権/アジア・ジュニア選手権

- トラックレース<男子エリート> ..... 2
- トラックレース<女子エリート> ..... 5
- トラックレース<男子ジュニア> ..... 7
- タイムトライアル<男女エリート & 男子U23> ..... 12
- タイムトライアル<男子ジュニア> ..... 14
- ロードレース<男子U23> ..... 15
- ロードレース<男子エリート> ..... 16
- ロードレース<女子エリート> ..... 17
- ロードレース<男子ジュニア> ..... 18

- 「ロンドンへ、そして未来へ」松本 整 総監督 ..... 19
- '11-12UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス #4 ..... 20
- 2012年シクロクロス世界選手権大会 ..... 21
- 2011タスマニア・サイクルカーニバル ..... 22

- 今後の大会予定 ..... 23
- 連盟の動き ..... 23
- 日本新記録 ..... 23
- アジア・ジュニア選手権 PHOTO ..... 24

# TRACK RACES

# 男子エリート

KEIRIN 00  
この派遣は競輪の補助金を  
を受けて実施されました



男子エリートスプリント決勝、1位の渡邊(右)と2位のAWANG

2月8日から12日の5日間、マレーシア・クアラルンプールにある Cheras Velodrome で第32回トラックアジア選手権が開催された。アジアの国から16カ国、219名の選手が参加し、競われた。

日本ナショナルチームのメンバーはエリート男子選手5名、エリート女子選手5名、それにジュニア男子選手6名の布陣。エリートの選手達にとっては世界選手権のポイント獲得ならびに、オリンピックのポイント獲得のために重要な大会でもあり、現ナショナルチームの最強のメンバーで臨んだ。

男子スプリント：渡邊一成、男子ポイントレース：盛一大、女子個人追抜競走：田畑真紀が優勝し、アジアチャンピオンの称号を得る活躍をした。また、男子チームスプリント：中川誠一郎・渡邊一成・新田祐大、女子団体追抜競走：田畑真紀・加瀬加奈子・上野みなみが2位、男子ケイリンの渡邊一成、そして女子スクラッチと女子ポイントレースで田畑真紀が3位に入り、メダル獲得数でも、香港に僅差の2位と、久しぶりに韓国・中国に優る成績を収めることができた。

特に、男子スプリントの渡邊一成の堂々とした戦いと、男子ポイントレースでの盛一大の圧勝は、チームに活力を与えた点からも賞賛に値する走り

であった。

女子短距離は残念ながら、メダル獲得はならずだったが、スプリントの予選で前田佳代乃が好記録を出し、



男子エリートチームスプリント、2位の新田・渡邊・中川



男子エリートポイントレース優勝の盛（先頭）

今後の大会での期待をしたい。

今大会の最中に、他の国々のコーチ陣といろいろと情報交換をした。アジアの国々はそれぞれ、独自の問題を

抱えているということが理解でき、日本の環境は恵まれているほうであると再認識させられた。たとえば、イランは常にビザ発行が困難な点で、国際

大会への参加がままならない。韓国と中国は地域色や派閥が強く、国内でのチーム間、あるいは連盟とコーチ陣、選手同士の繋がりがうまくいっていないようである。UAE やカタールのように、日中 40 度を越える砂漠の中で練習をしなければいけない国もある。そんな中、唯一香港だけは、「組織としてうまく機能し、順調にステップアップしている」と自画自賛していた。国から配分される 500 万 US ドル＝約 4 億円の予算を元手に、総監督がチームの総指揮を行い、選手達の給与や、スタッフの報酬体系もしっかりとしており、Jr の育成システムや引退後の選手へのバックアップ体制もしっかりと構築されている。昨年アジア大会での活躍や今大会でのメダルラッシュが、一過性のものではないという理由を納得させられる話振りであった。

現在、中野委員長と松本総監督の二人が、「日本独自のシステム作り」を推進している。早急にその達成が成されること願い、我々が一丸となり行動していく必要を感じた。

（強化コーチ・トラック 吉井 功治）



男子エリートケイリン決勝、3 位の渡邊（右端）と 4 位の新田（その左）



男子エリートスプリント5～8位決定戦の中川



男子エリートスクラッチの盛

**【競技結果】**

第32回アジア自転車競技選手権大会  
(2012/2/8-12 マレーシア・クアラルンプール)

●男子エリート

スプリント

- 1 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 2 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 3 ZHANG Lei CHN



- 5 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本

1km タイムトライアル

- 1 MD YUNOS Muhammad Edrus MAS 1:06.547
- 2 PARASH Mahmoud IRI 1:06.986
- 3 WU Lok Chun HKG 1:07.862
- 5 盛 一大 愛知・愛三工業 1:08.822

ケリッ

- 1 NG ONN LAM Josiah MAS
- 2 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 3 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島



- 4 新田 祐大 JPCA JPCU 福島

4km 個人追抜競走

- 1 HAGHI Alireza IRI 追抜勝
- 2 CHEUNG King Lok HKG
- 3 TUYCHIEV Vladimir UZB 追抜勝
- 6 盛 一大 愛知 愛三工業 4:48.932

ポイントレース (30km)

- 1 盛 一大 愛知 愛三工業 65p
- 2 RAJABLOU Mohammad IRI 44p
- 3 CHOI Seungwoo KOR 29p



スクラッチ (10km)

- 1 FENG Chun Kai TPE 12:49.429
- 2 BOONRATANATHANAKORN Thirakit THA
- 3 SALLEH Mohd Harif MAS -1lap
- 6 盛 一大 愛知 愛三工業 -1lap

オムニアム

- 1 LYALKO Alexey KAZ 12p
- 2 JANG Sunjae KOR 24p
- 3 KWOK Ho Ting HKG 28p
- 7 西谷 泰治 愛知 愛三工業 34p

チームスプリント

- 1 China 1:00.724
- 2 日本 渡邊・新田・中川 1:01.487
- 3 Iran 1:03.523



# 女子エリート



女子エリート個人追抜競走、優勝の田畑



女子エリート団抜、2位の加瀬・田畑・上野



女子エリートスクラッチ、3位の田畑



女子エリートポイントレース、3位の田畑



女子エリートオムニアムの加瀬（先頭）



女子エリートチームスプリントの前田・石井



女子エリートケイリンの石井（左端）と前田（右端）



女子エリートスプリント、4位の前田（右）

**【競技結果】**

第32回アジア自転車競技選手権大会  
(2012/2/8-12 マレーシア・クアラルンプール)

●女子Iリト

500m タイムトライアル

- |   |                 |           |        |
|---|-----------------|-----------|--------|
| 1 | LEE Wai Sze     | HKG       | 35.320 |
| 2 | XU Yulei        | CHN       | 35.962 |
| 3 | MUSTAPA Fatehah | MAS       | 36.394 |
| 4 | 前田佳代乃           | 鹿児島 鹿屋体育大 | 36.579 |

スプリント

- |   |                 |            |
|---|-----------------|------------|
| 1 | LEE Wai Sze     | HKG        |
| 2 | MUSTAPA Fatehah | MAS        |
| 3 | SHI Jingjing    | CHN        |
| 4 | 前田佳代乃           | 鹿児島 鹿屋体育大学 |
| 6 | 石井 寛子           | 茨城         |

ケイリン

- |    |                 |            |
|----|-----------------|------------|
| 1  | MUSTAPA Fatehah | MAS        |
| 2  | XU Yulei        | CHN        |
| 3  | LEE Wai Sze     | HKG        |
| 9  | 石井 寛子           | 茨城         |
| 10 | 前田佳代乃           | 鹿児島 鹿屋体育大学 |

3km 個人追抜競走

- |   |                    |         |          |
|---|--------------------|---------|----------|
| 1 | 田畑 真紀              | JPCA タイ | 3:54.058 |
| 2 | WONG Wan Yiu Jamie | HKG     | 3:58.022 |
| 3 | HUANG Ho Hsun      | TPE     | 4:01.392 |



スクラッチ (7.5km)

- |   |                       |         |           |
|---|-----------------------|---------|-----------|
| 1 | DIAO Xiaojuan         | HKG     | 12:24.941 |
| 2 | BOONSAWAT Panwaraporn | THA     |           |
| 3 | 田畑 真紀                 | JPCA タイ |           |



ポイントレース (20km)

- |   |                    |         |       |
|---|--------------------|---------|-------|
| 1 | WONG Wan Yiu Jamie | HKG     | 29p   |
| 2 | DROBISHEVA Olga    | UZB     | 21.5p |
| 3 | 田畑 真紀              | JPCA タイ | 20.5p |



オムニアム

- |   |              |           |     |
|---|--------------|-----------|-----|
| 1 | HUANG Li     | CHN       | 13p |
| 2 | HSIAO Mei Yu | TPE       | 19p |
| 3 | LEE Min Hye  | KOR       | 21p |
| 6 | 加瀬加奈子        | 新潟 日本競輪学校 | 30p |

チームスプリント

- |   |                  |        |
|---|------------------|--------|
| 1 | China            | 46.220 |
| 2 | Korea            | 46.723 |
| 3 | Hong Kong, China | 48.566 |
| 4 | 日本 石井・前田         | 49.088 |

3km 団体追抜競走

- |   |             |          |
|---|-------------|----------|
| 1 | China       | 3:35.830 |
| 2 | 日本 田畑・加瀬・上野 | 3:39.620 |



- |   |                |          |
|---|----------------|----------|
| 3 | Chinese Taipei | 3:42.942 |
|---|----------------|----------|

# 男子ジュニア



Silver

Gold

男子ジュニアケイリン、1位の谷口（右端）と2位の清水（左から2番目）

男子ジュニアチームスプリント優勝の清水・谷口・高士



Gold



Gold

男子ジュニアスプリント、1位の谷口(左)



Gold

男子ジュニアスクラッチ優勝の高士(先頭)



男子ジュニア 1kmTT、2位の谷口



男子ジュニア団抜、2位の伊藤・鈴木・小林・高士



男子ジュニアスプリント、3位の清水(左)



男子ジュニア個人追抜競走、3位の鈴木



男子ジュニアポイントレース、3位的小林

トラックメンバーは短距離2名(谷口・清水)、中距離4名(高士・小林・鈴木・伊藤)という構成。中距離が専門であるが短距離も走ることができる高士が、チームスプリントと4km団体追抜競走の両方にエントリーをした。

最高で45℃を超える気温と高い湿度という厳しい気象条件、そしてトラック走路はガタガタと波打っているという、高校生にとっては、かつて経験したことのないような過酷な状況下でレースを戦うこととなった。そのため特にタイムトライアル種目における記録は低調なものとなってしまったが、大変貴重な経験が出来たと思う。

また、今回はエリートの選手と共に大会に参加しており、松本整監督はじめ、コーチ、メカニック、マッサーなどスタッフのプロフェッショナルな仕事ぶりは、私も選手も大変勉強になった。

今大会、ジュニアチームは昨年を上回る4つの金メダル、3つの銀メダル、3つの銅メダルを獲得することができた。選手が慣れない環境の中でも全力を出し切ることができたのは、環境作りに努めていただいたスタッフの皆さんのおかげであり、本当に感謝している。またこれまでに、日本国内で支えとっていただいた方、応援してくださった方たちにも改めて感謝したい。

#### 〈チームスプリント〉

1走清水、2走谷口、3走高士の3名で臨んだ。ギアは48×14。予選タイム1分05秒539。タイムは平凡であったが、…走路のコンディションを考えると致しかたないというところか… なんとか予選1位タイムで決勝進出となった。決勝の相手は韓国でタイム差は約1秒。絶対に優勝するという強い気持ちを持って決勝のスタートをきった。1走、前半は予選よりもやや抑えて入る。隊列が整うと全開でペースアップ。2走、きれいに加速しながら3走につなぐ。3走、相手韓国へのリードを保ちながらゴール。予選タイムを上回るタイムで優勝となった。

#### 〈1km タイムトライアル〉

谷口が出場。ギアは48×14を使用。チームスプリント決勝から1時間そこそこの出走となった。思い切ったスタートが切れるかどうか勝負の鍵であったが、少し抑えてしまった。結果は、残念ながら1位と0.14秒差の2位であった。

#### 〈スプリント〉

谷口、清水の2名がエントリー。ギアは48×14を使用した。予選は谷口が11秒022で1位、清水が11秒446で6位であった。2名とも走路がガタガタでうまくスピードが乗せられないと苦しみながらのタイムであり、体調の良さをうかがわせた。

谷口は決勝まで危なげなく勝ち上がった。決勝の相手は韓国選手。予選タイム差は0.13秒で接戦になるかと思われたが、堂々の走りで勝利し金メダル獲得となった。決勝を戦った両名とも、2時間あまりのうちにチームスプリント決勝、1kmタイムトライアル決勝、スプリント決勝を走るレーススケジュールであり、最後はスタミナの差があらわれたともいえるだろう。

清水は1/8決勝、1/4決勝ともに、タイム差の近い相手またはタイム上位の相手との対戦となったが、積極的なレースを展開しうまく勝ち上がった。残念ながら1/2決勝では2番時計の韓国選手の前に敗れ、3-4位決定戦に回ることになる。3-4位決定戦では「必ず勝つ」という気合いと、こまめに見せうまいレース運びで勝利、銅メダル獲得となった。

#### 〈ケイリン〉

谷口、清水の2名が出場。49×14のギアを使用した。レースは予選、決勝の2本。国内大会と違い6名でのレースであり、後方からの戦いになっても十分勝負できると考えたが、早めの仕掛けと、前々での勝負を心がけるように指示をした。

予選はそれぞれ別の組であったが、積極的なレースをして両名とも1着で勝ち上がる。

決勝。2人で連携しながら先行体勢に持ち込み、ワンツーフイニッシュを狙う。スタート後、作戦通り誘導の後ろをとり、谷口-清水の順に並ぶ。誘導退避後、谷口は徐々にペースを上げながら流し先行の体勢に入る。清水はうまく車間をとりながら、ギリギリのタイミングで谷口をまくりに行く。結局、清水のまくりは届かなかったが、谷口1着、清水2着という結果であった。実力もさることながら、作戦通りにレース展開し、見事にワンツーを決めた2人の走りは見事であった。

#### 〈4km 団体追抜競走〉

高士、小林、鈴木、伊藤が出場。51×15のギアを使用した。1月の直

前合宿と現地での練習のおかげで、徐々にチームワークが良くなってきた。選手同士でミーティングを何度も行い、少しでも良い記録を出そうという雰囲気があったことは良かった。目標タイムは4分30～35秒。

予選、中盤で鈴木が交代でミスをし離れてしまうアクシデント。残る3人で走りきりゴール。タイムは4分37秒451の2位で決勝に進んだ。数時間のインターバルがあったので、ホテルに戻り休養をとることにしたが、その間に選手たちは入念にミーティングを行っていた。

何とか金メダルを獲得したいという思いでスタートラインに立つ。やや風が出てくる中スタートした。途中、小林が落車するアクシデント。向かい風を受け、前を走る3人が少しずつ膨らんだところに接触してしまっただけ。予定は狂ってしまったが残る3人でタイムをまとめ、3分37秒208でゴール。優勝のカザフスタンに2秒3およばなかった。

#### 〈3km 個人追抜競走〉

鈴木が出場。ギアは51×15。目標タイムを3分35秒とした。予選は序盤飛ばしすぎて、中盤以降ペースダウンしてしまった。予選タイムは3分41秒416で3位、3-4位決定戦へ進む。

決定戦では、序盤抑えて行き中盤からのペース維持を図るプランを立ててスタートした。途中まではプラン通りの走りであったが、後半、我慢はするもののペースを維持しきれなかった。予選よりタイムを落としはしたが相手より先着。3分42秒072で3位という結果であった。

#### 〈スクラッチレース〉

7.5kmのスクラッチレースには高士が出場。ギアは48×14。スクラッチレース後、30分ほどでチームスプリント決勝が行われる予定になっていたため、無駄足を使わないレース展開をし、ゴールスプリントで確実に1着をとる作戦を立てた。レーススタート。逃げを試みる選手がいるが決まらない。全体としては消極的な展開になった。のこり1kmあたりからゴールに向けてペースが上がった。高士はうまく集団の前の位置をキープしながら、仕掛けどころをうかがう。ラスト1周、絶好の位置からまくりに出て、最後は後続を引き離しながらゴールし、金メダルを獲得した。

#### 〈ポイントレース〉

小林が出場。ギアは51×15を使用。体調不良と団抜中の落車による怪我の影響が懸念された。序盤は逃

げには警戒しながら様子を見て、中盤以降、コンディションに問題なければどんどん点数を取りに行くことにした。前半は慎重にレースを展開した。力上位の4名と共にラップし、上位入賞の可能性を残す。後半は積極的に得点を取りに行き、結果は3位、銅メダル獲得となった。ベストコンディションであれば、さらに上のメダルが期待されただけに悔やまれるレースとなった。(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ 百々 敦史)

**【競技結果】**

第19回アジアジュニア自転車競技選手権大会 (2012/2/8-12 マレーシア・クアラルンプール)

●男子ジュニア

スプリント

- 1 谷口 遼平 三重 朝明高校
- 2 JO Juhyeon KOR
- 3 清水 裕友 山口 誠英高校



1km タイムトライアル

- 1 LEUNG Chun Wing HKG 1:08.588
- 2 谷口 遼平 三重 朝明高校 1:08.729
- 3 JO Juhyeon KOR 1:09.624



ケイリン

- 1 谷口 遼平 三重 朝明高校
- 2 清水 裕友 山口 誠英高校



- 3 WANG Ji Hyeon KOR

3km 個人追抜競走

- 1 LEUNG Chun Wing HKG 3:37.236
- 2 GAINEYEV Robert KAZ 3:39.839
- 3 鈴木 康平 静岡 星陵高校 3:42.072



スクラッチ (7.5km)

- 1 高士 拓也 三重 朝明高校 11:05.4
- 2 YORDSUWAN Sethawut THA
- 3 SUARDI Muhammad Firdaus MAS



ポイントレース (15km)

- 1 LEUNG Chun Wing HKG 41p
- 2 GAINULIN Bakyt KAZ 41p
- 3 小林 泰正 群馬 高崎工業高校 35p



チームスプリント

- 1 日本 谷口・清水・高士 1:05.441



- 2 Korea 1:06.862
- 3 Malaysia 1:07.890

4km 団体追抜競走

- 1 Kazakhstan 4:35.554
- 2 日本 高士・鈴木・伊藤・小林 4:37.208



- 3 HongKong, China 4:37.291

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworld

**JAL JAPAN AIRLINES**

## TIME TRIALS

## エリート &amp; U23



## &lt;個人タイムトライアル&gt;

2月14日より開催されたアジア選手権ロード競技は、個人タイムトライアルから行われ、午前中男子ジュニア1周12.8kmの周回コースを2周(25.6km)で行われた。

午後から行われた女子エリートは13名のエントリー、男子ジュニアと同じ25.6kmで行われ、上野みなみが出走、最後から2番目にスタートした上野は1周目4位で通過、トップタイムと18秒差ライバルのタイムを見ながら前半のペースをキープ、1位には及ばなかったが後半順位を上げ2位でゴールして銀メダルを獲得。

15日に行われた男子エリートは12.8kmを3周回(38.4km)西谷泰治が出場、第2グループでスタートした西谷は思うようにペースを上げられず、後半勝負に出るが7位に終わる。

午後から行われたU23タイムトライアルは男子エリートと同じ38.4km、木下智裕に替わり山本元喜が出場、午前中に行われた男子エリートのタイムを目標にスタート、午後は風が強くなり突風で前輪を取られながらも力走した山本は西谷のタイムを数秒上回り1グループのトップでゴール。

第2グループの結果待ちでイランの選手に惜しくも敗れ2位となり銀メダルを獲得。

(強化コーチ・ロード 高橋 松吉)

男子 U23TT、2位の山本



## 【競技結果】

第 32 回アジア自転車競技選手権大会  
(2012/2/14-15 マレーシア・ポトラジャヤ)

## ●個人タイムトライアル

## 男子U23 (38.4km)

- |   |                     |           |
|---|---------------------|-----------|
| 1 | WACKER Eugen KGZ    | 47:41.487 |
| 2 | GRUZDEV Dmitriy KAZ | 48:47.724 |
| 3 | ASKARI Hossein IRI  | 49:46.918 |
| 7 | 西谷 泰治 愛知 愛三工業       | 50:48.180 |

## 男子 U23 (38.4km)

- |   |                            |           |
|---|----------------------------|-----------|
| 1 | MOAZEMI GOUDARZI Arvin IRI | 50:13.190 |
| 2 | 山本 元喜 奈良 鹿屋体大              | 50:43.979 |



- |   |         |     |           |
|---|---------|-----|-----------|
| 3 | HO Burr | HKG | 51:23.974 |
|---|---------|-----|-----------|

## 女子U23 (25.6km)

- |   |               |     |           |
|---|---------------|-----|-----------|
| 1 | NA Ahreum     | KOR | 35:15.944 |
| 2 | 上野みなみ 青森 鹿屋体大 |     | 36:41.153 |
| 3 | WANG Cui      | CHN | 37:01.792 |



女子エリートTT、2位の上野



**【競技結果】**

第19回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会  
(2012/2/14 マレーシア・プトラジャヤ)

●個人タイムトライアル

男子ジュニア (25.6km)

- 1 LEUNG Chun Wing HKG 33:44.846
- 2 西村 大輝 東京 昭和第一 34:23.912
- 3 GAINEYEV Robert KAZ 35:18.322



男子ジュニア TT、2位の西村

**<ジュニア個人TT>**

25.6 km (12.8 km × 2周)

1組目8名、2組目9名の計17名で競われた。マレーシアは2月から5月の気温が高いといわれていたが、個人TTは気温があまり高くない午前9時から競技がスタートした。

日本選手は1組目2番に西村がスタート。フラットな周回コースで、西村は1周目のおよそ10km付近で前走のカタール選手を追い抜いた。そのままペースを維持し、トップタイムでゴール。2組の結果を待つことになった。

2組目には前年度優勝の香港の選手が最終走者としてスタート。結果、香港の選手が33分44秒846、西村が34分23秒912の39秒差で銀メダルに。西村は優勝を狙っていただけに、悔しさをにじませロードでの奮起が期待できた。

(ジュニア強化育成部会員 山本 宏恒)

**BRIDGESTONE**  
あなたと、つぎの景色へ

世界へ挑む  
**ANCHOR THE BRAVE.**

ブリヂストンサイクル株式会社  
●専用カタログご希望の方は¥200切手を同封の上、郵送にてお申し込みください。  
〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3-1-1 ブリヂストンサイクル(株) アンカー販売課 TEL. 048-772-5334

参考完成車

**RMZ FRAME**  
¥480,000(税込)  
フレーム単体基準価格

**2012 NEW MODEL RIS9**  
¥715,000(税込)  
※写真仕様は+¥10,000  
2012年3月発売予定

**XIS9**  
¥670,000(税込)

**ANCHOR**

JCF アンカーは(財)日本自転車競技連盟の  
オフィシャルスポンサーです。

www.anchor-bikes.com

Gold

## 男子 U23

### <個人ロード：女子エリート>

2月17日女子エリートは12.8kmコースを9周(115.2km)で行われた。今回のアジア選手権の女子エリートは優勝でロンドンオリンピック出場の1枠が獲得できるため、ゴールスプリントで勝つためにトラック選手の加瀬加奈子を起用しゴールスプリントで勝負する作戦をとった。

加瀬のアシストに西加南子、萩原麻由子、上野みなみがスタート、レースは終始集団のまま予想通りの展開でラスト1周、加瀬がゴール前 Hsiao Mei Yu (台湾) をマークしてスプリントに入れば悪くても2着を想定していたが、アシスト役の萩原が自らアタックを繰り返して集団のペースを上げてしまい、加瀬のアシストのはずが逆効果になってしまった。

ラスト1.1kmから萩原、西、上野、加瀬が想定外のスパートを開始してしまう。集団を引き離す事も出来ず、マークしなければならないライバル選手に思うように仕掛けられ加瀬は12位でゴール、期待されたロンドンオリンピック出場枠は残念ながら獲得する事ができなかった。

### <個人ロード：男子 U23>

2月17日午後から行われたU23のレースは10周(128km)で行われ早川朋宏、雨宮正樹、木下智裕、山本元喜の4名がスタート、日本チームは終始積極的なレース展開で攻撃を仕掛ける。

5周目木下を含む9名の選手が集団から抜け出しメイン集団を引き離す。2分以上引き離れたトップグループは牽制気味になるが、木下がトップ集団をコントロール。自分の得意な小集団ゴールスプリントに持ち込み見事に優勝、金メダルを獲得。



男子U23の雨宮・早川・木下・山本(左から)

### <個人ロード：男子エリート>

2月18日ロード競技最終日男子エリートロードレースが14周(179.2km)で行われた。

日本からは福島晋一、宮澤崇史、西谷泰治、畑中勇介の4名が参加、序盤からハイペースのレース展開となり、アタック合戦が続く中4周終了後、宮澤、畑中を含む16名の選手が集団から抜け出し逃げる。

メイン集団を引き離しに掛かるがなかなかペースが上がらず、ラスト8周目に入りメイン集団に吸収される。

ラスト6周目に西谷を含む8名の選手が集団から抜け出し逃げのレース

展開を作りメイン集団を引き離し30秒前後で逃げる。

ラスト1周、メイン集団から Sohrabi Mehdi (イラン) が単独アタック、続いて Wong Kam Po (香港)、Jang Kyung Gu (韓国) が追走。ラスト1.2kmで Sohrabi Mehdi がトップ集団に追い付き、ラスト1km過ぎて Wong Kam Po、Jang Kyung Gu が追い付き、そのままゴール勝負となる。Sohrabi Mehdi が先行で西谷が追走するところ Wong Kam Po に一気にかわされ3着でゴール、残念ながら銅メダルに終わった。

(強化コーチ・ロード 高橋 松吉)



# 男子エリート

男子エリートゴールスプリント、3位西谷



男子エリート西谷



男子エリート宮澤



男子エリート福島



男子エリート畑中(右から2番目)





## 女子エリート

女子エリートのメイン集団



女子エリート加瀬(手前)と西



女子エリート集団の上野、西、加瀬、萩原(右から)

### 【競技結果】

第32回アジア自転車競技選手権大会  
(2012/2/17-18 マレーシア・アトラジャヤ)

#### ●個人ロードレース

##### 男子U-23 (179.2km)

- |   |               |         |         |
|---|---------------|---------|---------|
| 1 | WONG Kam Po   | HKG     | 4:10:33 |
| 2 | SOHRABI Mehdi | IRI     | 4:10:33 |
| 3 | 西谷 泰治         | 愛知 愛三工業 | 4:10:33 |



- |    |       |              |         |
|----|-------|--------------|---------|
| 11 | 畑中 勇介 | 東京 シムルシク*    | 4:10:48 |
| 18 | 宮澤 崇史 | JPCA サクパノク   | 4:11:05 |
| 19 | 福島 晋一 | JPCA トレガノスピア | 4:11:05 |

##### 男子U23 (128km)

- |   |                              |          |         |
|---|------------------------------|----------|---------|
| 1 | 木下 智裕                        | 神奈川 エカース | 3:02:05 |
| 2 | OTHMAN Muhamad Adiq Husainie | MAS      | 3:02:05 |
| 3 | MOAZEMI GOUDARZI Arvin       | IRI      | 3:02:05 |



- |    |       |          |         |
|----|-------|----------|---------|
| 11 | 雨宮 正樹 | 山梨 日本大学  | 3:04:03 |
| 15 | 早川 朋宏 | 愛知 法政大学  | 3:04:03 |
| 28 | 山本 元喜 | 奈良 鹿屋体育大 | 3:04:03 |

##### 女子U-23 (115.2km)

- |    |                   |              |         |
|----|-------------------|--------------|---------|
| 1  | HSIAO Mei Yu      | TPE          | 3:16:49 |
| 2  | GU Sungeun        | KOR          | 3:16:49 |
| 3  | MANEEPHAN Jutatip | THA          | 3:16:49 |
| 12 | 加瀬加奈子             | 新潟 日本競輪学校    | 3:16:49 |
| 28 | 萩原麻由子             | 和歌山 CB あさひ   | 3:16:49 |
| 34 | 上野みなみ             | 青森 鹿屋体育大     | 3:16:55 |
| 35 | 西 加南子             | 千葉 Luminaria | 3:16:55 |

# 男子ジュニア



男子ジュニアのゴール、1位西村(中央)と2位小橋(左端)

## <ジュニア個人ロードレース> 115.2km (12.8km×9周)

個人タイムトライアルと同じコースを使用。日本からは派遣された4選手が出場した。

2月16日午前9時にスタート。1周目は特に逃げる選手もなく、静かな序盤となった。レースが動き出したのは3周目。ウズベキスタンやベトナムの選手、数名が逃げを打ち、2番手集団に10秒ほどの差をつけた。4周目に入り、2番手集団がトップ集団を吸収、その後、徳田とタイの選手がアタックを掛け、さらに韓国選手が追った。そこを小橋がチェックする。6周目に入り、再びトップ集団が吸収され、新たにインドネシア、タイ、ウズベキスタンなどの選手ら7名が飛び出した。その中に、西村もいた。

8周目に入り、トップ集団は西村を含め6名で形成。後続集団との差は20秒だった。最終周、残り2km付近で後続集団から数名がアタック。それに反応し第2集団にいた小橋、馬渡、徳田も追走した。残り1kmのロータリーでUターン。西村を含めたトップ集団にアタックをかけた数名が追いついた。ゴール前300mでゴールプリントが展開され、残り150mで西村が一気にスパート、個人TTの雪辱を果たし見事に優勝を飾った。2位には後続集団から追いついた小橋が入り、日本勢が1、2位を独占した。

## 【ジュニアロード総括】

派遣期間は2月10日から19日までの10日間。2月10日にジュニア、U23、エリート(男女)が成田に集合し、お互いの大会への決意を確認した。クアラルンプールには約7時間のフライト、日本との時差は1時間だった。

レース前は、エリート選手に面倒を見てもらいながらの練習でコースを試走したり、心肺機能を高めるトレーニングなどを行った。レース後はエリート選手のレースも観戦。ジュニアの選手にとってスピードの違いやレース内容の違いが実感でき、今後のレースにとっても重要な勉強になった。

アジア・ジュニア自転車競技選手権大会に今回で5回目の帯同となった。結果としては優勝1、準優勝2で好成績を残せることができた。一方で、選手が準備や片付けを怠った場面もあり、エリートをはじめほかの日本代表選手に迷惑を掛けてしまいジュニアナショナルチームの一員としての意識が不足していた感もあった。

各国選手とも力を付けてきているが、日本のジュニアも確実にレベルを上げていることをアジアの舞台で実証できた。ジュニア、U23、エリートを含め各カテゴリーで今後、世界に通用



男子ジュニアのスタート前、西村、馬渡、徳田、小橋(左から)

する選手育成に努めたい。(ジュニア強化育成部会員 山本 宏恒)

## 【競技結果】

第19回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会 (2012/2/16 マレーシア・プトラジャヤ)

### ●個人ロードレース

男子ジュニア (115.2km)

- 1 西村 大輝 東京 昭和第一学 2:45:44
- 2 小橋 勇利 愛媛 松山工業高 2:45:44
- 3 LEUNG Chun Wing HKG 2:45:44



- 8 馬渡 伸弥 東京 昭和第一学 2:45:48
- 32 徳田 優 京都 北桑田高校 2:45:57

## 「ロンドンへ、そして未来へ」



ナショナルチーム総監督  
松本 整 マツモト ヒトシ  
1959年5月20日生(52歳)  
京都府立洛北高等学校出身

元競輪選手でG1の最高齢優勝記録(45歳)を持つ。現役引退後はフィギュアスケートの織田信成選手やスケルトンなど自転車競技以外でも多種目のトップアスリートを指導。2011年5月JCFの日本代表総監督に就任。

会社で打ち合わせの最中に不意に鳴った携帯電話は、中野強化委員長からのものでした。内容は「自転車競技の監督として時間を作ることは可能か?」という不意な問いかけでした。即答を控え、複雑な思いを胸に自社の新規事業構想を、関係各社と模索し奔走していました。

「相談がある。」との内容で、富原会長からの連絡が私の携帯電話の留守録に入っていたのは、中野強化委員長の電話から数日後のことでした。

この連盟トップからの2つの電話から約1ヶ月半、中野強化委員長からは幾度も説得のお電話を頂き、富原会長ともお話をさせて頂いた上で、新しく就任された会長、強化委員長の日本の自転車競技界を改革するという熱い思いにうたれ、新監督に就任することを決心しました。

富原会長も、中野新強化委員長も、私に、ただ現場の監督として監督就任を要請したわけではないことは十分承知しています。要請を受けるからには将来を見据えた、しっかりとした強化体制を作らねばならない。

今回の監督就任は、強化システムの新体制作りという仕事であり、ビジネスの世界で言う「事業再生」にあたる大事業と考えています。新体制作りということは、平たく言い換えると「今までにない新しいやり方に変えていく」と言うこと、つまり改革です。この事業を始めるにあたり、2つの要

件が必要と考えました。

1つは「自分たちは今のままではいけない。」という意識をチーム全体が持つことです。つまりチーム全体の意識を変えなければなりません。しばらく勝てなかったチームと選手は、勝つことへの貪欲さを忘れてしまいました。ナショナルチームの選手達は皆、素晴らしい才能に恵まれています。しかし常に可能性に挑戦し、自らの才能を磨こうとしなければ素晴らしい才能も開花しません。勝利への貪欲さを忘れかけた選手やスタッフに、日本ではもとより、世界で勝つことを期待され選ばれた選手でありチームであることを自覚させ、勝つことが使命とされるナショナルチームへと変貌を遂げさせなければなりません。

そしてもう1つは意志決定の順序と、指揮命令系統の明確化が必要でした。意志決定と指揮命令系統の明確化、すなわちガバナンス構築は、今回の改革の基盤となるものです。一般にスポーツ組織では、このガバナンス構築が最も遅れている分野と指摘されています。そしてガバナンス構築には、幾つかのポイントがあるとされています。

1つは存在意義を示し自覚するようにすること。1つはステークホルダー全員に理解して貰うこと。1つは意志決定が行える仕組みを作ること。そして、もう1つは組織のトップの理解が必要だとされています。

就任後、まず最初に始めたのは存在意義を示すことでした。スポーツ組織における存在意義とは、企業における企業理念と同じです。選手、コーチはもとより、その他諸々の構成員、連盟内外のステークホルダーに共有されるべきものがナショナルチームの理念です。

「ナショナルチームは日本最高峰の選手であると共に、自転車文化の普及及び振興のため、自転車界の最大の広告塔として機能しなければならない。」これをナショナルチームの基本理念として掲げました。

この理念の共有と理解により、日本代表チームの選手達は、自分たちが日本の自転車界を牽引する、重大な使命を担っていることを自覚すること

が出来ます。自覚すれば当然、発言や行動が変化していきます。就任直後に短距離からロードまで、日本代表の中心選手達にはこの理念を説明し、協力する意志を示して貰いました。

そして次に、強化委員長から下に属する強化部の組織図を改変しました。今までは、全ての種目のコーチ陣やスタッフが横並びとなっていた組織図を、総監督というポジションを新しく設けて、上下と横の関係をハッキリ示しています。このことにより、どのように指示が流れるかがハッキリしました。

当然ですが多くの人間で構成される組織という個の集合体は、各分野、各個人でばらばらに動いては進む方向が定まりません。進んでいく方向を定めるためには、指揮命令系統の明確化は避けて通ることが出来ない課題でした。

ここに連盟トップのコミットメントが加わることで、ガバナンス構築にむけた最初の準備が整います。連盟トップの「改革するという強い意志と新体制に対する理解」は、冒頭にお話しした経緯より明らかです。

これらが整った後に現場に進める作業の1つ1つが、組織運営上のノウハウとして意図的に蓄積、反映されて始めて、継続に耐える強化システムが出来上がります。システム構築には、この「意図的」という言葉がキーワードとなります。つまりある方向性を持った意志が働いて、システムを作り上げると言うことです。一貫した方針とはこうして出来上がっていきます。

新チームは、このような作業のもと、ロンドンオリンピックでのメダル奪取に向けて動き始めました。ワールドカップ開幕当初と今では、選手の表情は全く違います。まだまだ試行錯誤の連続ですが、勝利への貪欲な姿勢、一貫した強化方針は少しずつですが浸透してきています。

現在のところ新体制になってから、トラック競技の日本新記録は12回更新されています。この先、他の強豪国に負けない強化システムを築き上げ、日本の自転車業界全体の活性化に役立つことが出来るように頑張りたいと思います。

# '11-12UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#4



## 渡邊 ケイリン 5 位!



2月16日から19日の4日間、イギリスロンドンにおいて、2011-2012 UCIトラックワールドカップ第4戦が開催された。8月のロンドンオリンピック本番の競技会場で行われたが、選手の「癖のない、とても走りやすい競技場」という印象のとおりで、今大会中、世界記録の更新など好記録が続出した。

日本チームはマレーシアのアジア選手権に出場したメンバーが中心で、強行スケジュールの中での連戦であった。その環境の中、渡邊一成がケイリンの決勝に進出。スプリントでも5-8位決定戦で積極的な走りを見せ、チームのリーダー的存在として十分な活躍をした。雨谷一樹がチームスプリントの一走として自己ベストの快走をし、前田佳代乃がスプリント予選で11秒469の日本記録を樹立した。この3名はこの1年間、順調にステップアップをしてきたが、なかなかそれが形と

ならずにいただけに、今回はっきりとした結果となって表れたことを高く評価したい。

前田は鹿児島での大学の練習、ナショナルチームの合宿だけでは満足せず、京都での特別合宿を重ね、貪欲にトレーニングに取り組んだことを、松本監督をはじめ多くの関係者が認めている。松本ジャパンがうまく機能したしている、良い兆候であるように映った。

今大会は、本番のプレイベントという位置づけであったため、セキュリティや運営面が普段のワールドカップとは異なり、緊張間の高いものであった。また、トラック競技の最強国であるイギリスチームの選手達が活躍をしたこともあり、連日超満員の会場は大いに盛り上がった。

4月のメルボルンの世界選手権で、オリンピックの国別枠が決定する。それまでに約40日、そしてオリンピッ

クまでは約150日と迫った。これからはがいよいよ本番であり、ナショナルチーム一丸となり突き進む時期に来ている。(強化コーチ 吉井 功治)

### 【競技結果】

2011-12 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#4  
(2012/2/16-19 ｲｷﾞﾘｽ・ﾛﾝﾄﾞﾝ)

#### 男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 HOY Chris GBR
- 2 LEVY Maximilian GER
- 3 FÖRSTEMANN Robert GER
- 7 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 11 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 30 新田 祐大 JPCA JPCU 福島 (CCT)

#### 男子ケイリン

- 1 HOY Chris GBR
- 2 ENDERS Rene GER
- 3 BOURGAIN Mickael FRA
- 5 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 13 新田 祐大 JPCA JPCU 福島 (CCT)

#### 男子ﾎﾞﾏｰ

- |    |                     |         |      |
|----|---------------------|---------|------|
| 1  | ARANGO Juan Esteban | COL     | 21p  |
| 2  | CHO Ho Sung         | KOR     | 32p  |
| 3  | BELL Zach           | CAN     | 33p  |
| 18 | 盛 一大                | 愛知 愛三工業 | 103p |

#### 男子チームｽﾌﾟﾘｯﾄ

- |   |               |        |
|---|---------------|--------|
| 1 | Germany       | 43.562 |
| 2 | France        | 43.631 |
| 3 | Great Britain | 43.781 |
| 8 | 日本 雨谷・渡邊・中川   | 44.791 |

#### 女子ｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 GUO Shuang CHN
- 2 MEARES Anna AUS
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 17 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学
- 39 石井 寛子 茨城

#### 女子ケイリン

- 1 KRUPECKAITE Simona LTU
- 2 LEE Wai Sze HKG
- 3 GUO Shuang CHN
- 37 石井 寛子 茨城
- 37 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学

#### 女子ﾎﾞﾏｰ

- |   |                   |     |      |
|---|-------------------|-----|------|
| 1 | HAMMER Sarah      | USA | 30p  |
| 2 | EDMONDSON Annette | AUS | 30p  |
| 3 | TROTT Laura       | GBR | 32p  |
|   | 田畑 真紀 JPCA ﾀｲﾁ    |     | 予選敗退 |

#### 女子チームｽﾌﾟﾘｯﾄ

- |    |               |        |    |
|----|---------------|--------|----|
| 1  | Great Britain | 32.754 | WR |
| 2  | Australia     | 32.945 |    |
| 3  | China         | 33.060 |    |
| 18 | 日本 石井・前田      | 35.840 |    |

#### 女子3km 団体追抜競走

- |    |               |          |    |
|----|---------------|----------|----|
| 1  | Great Britain | 3:18.148 | WR |
| 2  | Canada        | 3:18.982 |    |
| 3  | Australia     | 3:19.164 |    |
| 14 | 日本 田畑・石井・前田   | 4:13.408 |    |

### 2011-2012 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス第4戦 日本代表選手団

大会名 2011-2012 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス第4戦  
開催場所 イギリス・ロンドン  
開催日程 2012年2月16日～19日 派遣日程 2012年2月14日～21日

#### 代表選手団

監督 松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)  
コーチ 坂本 勉 (ナショナルコーチ)・吉井 功治 (JCF 強化コーチ)  
村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)  
メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)  
マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)  
ドクター 金井 貴夫 (JCF チームドクター)  
アドバイザー 沖 美穂 (JCF 強化アドバイザー)  
選手 渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)・中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)  
雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木)・新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島：シクロ東京)  
盛 一大 (愛知・愛三工業レーシングチーム)・石井 寛子 (茨城)  
前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)・田畑 真紀 (JPCA・ﾀｲﾁ)

## 2012年シクロクロス世界選手権大会

沢田の19位が最上位



U23、19位の沢田(右)



男子エリートの竹之内



女子の宮内(右)と豊岡(中央)

2012シクロクロス世界選手権がベルギー西海岸の街コクサイドで開催された。会場は軍施設の一角で、ここに設けられたコースは1/3が砂地でアップダウンを繰り返す難度の高いものであった。

1月28日、午前にジュニアのレース。前日までの試走で砂地帯は乗車が困難な場所が多くなっていった。スタートで中井が前方の落車に巻き込まれ、大きく前転する様子が会場の大画面に映し出された。幸いにも大きな怪我はなくレースに復帰。後方からの追い上げとなった。沢田はスタートこそ出遅れ気味であったが、徐々に順位をあげトップから3分16秒遅れの19位でのゴール。昨年の順位を上回ることができなかったが、コースの難易度を考慮すると現在の力を発揮できた結果である。横山は中盤まで良い走りだったものの、後半大きくペースダウンし41位、また中井は序盤の出遅れを挽回したものの横山に続く42位でのゴールとなった。

翌1月29日、午前中の女子のレースには国内選手権7連覇中の豊岡と今シーズン急速に力をつけた宮内が出走。前日とあまり変わらないコースコ

ンディションの中スタートをきった。豊岡はスタートで他国選手と絡み、落車こそ免れたが大きくロスをして集団後方から追う展開となった。一方の宮内は好スタートをきりレースを進めた。重い砂場でも力強い走りを見せたものの後半若干ペースが下がり、後方から追いつけた豊岡とともに80%ルール適用で-1Lapという結果であった。

午後のエリートは地元ベルギーの大観衆で会場が埋め尽くされ、我々スタッフ会場内を移動するのも困難な状況になった。スタート後の位置争いはすさまじく、集団は物凄い勢いで最初の砂山に突っ込んだ。竹之内・辻浦ともこの争いをうまく抜け、中ほどの順位でレースを進める。しかし、有力勢のスピードはすさまじく、竹之内・辻浦とも80%ルール適用となりレースを後にすることになった。

日本選手は年々確実にレベルアップしているが、今回のような重い路面では世界のトップレベルとの差を痛感する結果となった。エリート・女子で結果を残すことができなかったのは非常に残念だったが、難コースに対応できる体力レベル、スキル、テクニックの向上をはかり、更なる上位を目指せるよう

若手選手を中心に強化したい。

(選手団監督 澤田 雄一)

## 【競技結果】

2012年シクロクロス世界選手権大会  
(2012/1/28-29 ベルギー・コクサイド)

## 男子U23 (29.44 km)

|    |               |                |         |
|----|---------------|----------------|---------|
| 1  | ALBERT Niels  | BEL            | 1:06:07 |
| 2  | PEETERS Rob   | BEL            | +0:24   |
| 3  | PAUWELS Kevin | BEL            | +0:30   |
| 45 | 竹之内 悠         | 京都 TeamEurasia | -5laps  |
| 55 | 辻浦 圭一         | 奈良 ブリヂストンアカ    | -6laps  |

## 女子 (14.79 km)

|    |                      |               |       |
|----|----------------------|---------------|-------|
| 1  | VOS Marianne         | NED           | 41:04 |
| 2  | VAN DEN BRAND Daphny | NED           | +0:37 |
| 3  | CANT Sanne           | BEL           | +0:38 |
| 32 | 豊岡 英子                | 大阪 パナソニックレディス | -1lap |
| 33 | 宮内佐季子                | 静岡 CLUBviento | -1lap |

## 男子ジュニア (17.72 km)

|    |                      |             |       |
|----|----------------------|-------------|-------|
| 1  | VAN DER POEL Mathieu | NED         | 43:36 |
| 2  | VAN AERT Wout        | BEL         | +0:08 |
| 3  | JAUREGUI Quentin     | FRA         | +0:21 |
| 19 | 沢田 時                 | 滋賀 ブリヂストンアカ | +3:16 |
| 41 | 横山 航太                | 長野 快レーシング   | +6:52 |
| 42 | 中井 路雅                | 滋賀 瀬田工業高校   | +7:08 |

## 男子U23 (20.65 km) ※日本不出場

|   |                         |     |       |
|---|-------------------------|-----|-------|
| 1 | VAN DER HAAR Lars       | NED | 49:20 |
| 2 | BOSMANS Wietse          | BEL | +0:01 |
| 3 | VAN DER HEIJDEN Michiel | NED | +0:04 |

## 2011タスマニア・サイクルカーニバル

各選手が活躍!



クリスマス島の真っ只中、選手・スタッフ男性9人で成田を出発した。オーストラリアのタスマニア島で行われる「タスマニアカーニバル」に出場。

日本の四国と同じくらいの面積の島であるが、数多くの自転車競技場があり、約一ヶ月間に、トータル7レースのシリーズ戦がある。そのうちの、3レースに今回、中距離強化選手5名が参加。第一戦の会場Latrobeと第三戦のDevonportは周長450mの屋外競技場。第二戦のLauncestonは周長285mの屋内競技場。

オーストラリア、ロシア、スイス、ドイツ、ニュージーランド等、ナショナルチームのメンバーの他、オーストラリア国内のエリート選手からジュニア、マスターズの選手と、様々なレベルの選手が混じっている。

各会場のメインとなるWheelレースでは、西谷と橋本が表彰台に上がる、高士と窪木が準メインレースのスクラッチで3位、盛がケイリンで2位など、好成績を収め、連日、地元の新聞に日本チームの活躍が報道された。

レース数は多く、たとえば、西谷は一日に、ハンデキャップレース予選・決勝、Wheelレース予選、ケイリン予選・決勝、スプリント、バイクペーサーレース、団体追抜競走、エリミネーションを走り、その各々で戦術を考え戦い、ギヤ比も48X13といった普段では使用しないものを試すなど、いろいろな試みを行った。

2012年になり、メルボルンへ移動。元旦から、レースに出場した。オース

トラリアやヨーロッパのトップ選手が参加した、非常にハイレベルなレースであり、日本選手は全員、思うような成績を残すことが出来なかった。

特に、高校生の二人にとっては、今までに経験したことのないハイスピードのレース展開に戸惑いを抱えていたが、レース毎に課題を設け、自分の能力向上に大きく役立ったと確信している。優勝したAlan Davisは、チーム員9名のサポートを大いに活用したが、それに唯一対抗した2位のCaleb Ewanが17歳の選手であったことには、地元メディアも賞賛の嵐であった。

今回の遠征は年末年始を通して、9日間連続でレースに出場した。昨年からの、中距離の強化活動では、西谷と盛がレースで好成績を収めるだけでなく、チームのリーダーとして率先して行動することで若手の育成が進むという相乗効果が生まれていたが、今回はそれが顕著に現れ、多くの収穫が得られたと思われる。

高校生二人の活躍は、昨年のジュニア世界選手権優勝者のオーストラリア選手よりも優れており、久しぶりに「日本の自転車界に新星が現れた」と今後期待したい。

しかし、大きな視点から、オーストラリアの選手達と比較すると、手放しには喜べない。日本の3000m個人追抜競走のジュニア記録は1999年の3分28秒である。それに対して、今年のオーストラリアジュニア選手権の同競技16位のタイムが3分28秒。3位のタイムが、3分19秒。今の日本のエリート選手(ヨーロッパでプロチームに所属している選手を含めて)で、このタイムで走れる選手はいったい何人いるのであろう。そんな、疑問がふと浮

かんでしまう。

オーストラリアは、この10年でイギリスと並び、最も自転車競技界で発展を遂げた国である。世界選手権のトラックでメダルを量産、世界選手権男子ロードで2位、ツールドフランスで総合優勝と昨年、大活躍をした。そして、今年、自国のスポンサーと選手を中心に、満を持して、トッププロチームを結成、順調にステップアップを凶っている。しかし、これは何もこの数年の努力が織り成した結果ではない。オーストラリアの自転車の歴史は長く、100年以上もこの競技を真剣に考えて取り組んできた人間が絶え間なくいたことを彼らは決して忘れていない。

「ナショナルフェデレーションの最も重要な仕事のひとつは、競技の普及とジュニアの育成である」と言い切る、彼らの言動に、多くを感じる遠征となった。(強化コーチ 吉井 功治)

## 【主な競技結果】

## Latrobe

## A.J. Clarke &amp; Sons Handicap

- 1 Alexander Serov RUS
- 2 Michael Astell AUS
- 3 Glen O'Shea AUS
- 4 西谷 泰治 JPN

## Keirin

- 1 Simon Van Velthoven NZL
- 2 盛 一大 JPN
- 3 Luke Ockerby AUS

## Men's A Grade Scratch

- 1 Franco Marvulli SUI
- 2 Alexander Serov RUS
- 3 窪木 一茂 JPN

## Men's Wheel Race

- 1 Glen O'Shea AUS
- 2 橋本 英也 JPN
- 3 西谷 泰治 JPN

## Devonport

## Men's A Grade Scratch (Day1)

- 1 Franco Marvulli SUI
- 2 Alexander Serov RUS
- 3 高士 拓也 JPN

## Men's Wheel Race

- 1 Jack Cunings AUS
- 2 Alexander Serov RUS
- 3 橋本 英也 JPN

## Men's A Grade Scratch (Day2)

- 1 Alex Markov RUS
- 2 Luke Ockerby AUS
- 3 西谷 泰治 JPN

## 今後の大会予定

| 期日        | 大会名                           | 種目    | 場所                    |
|-----------|-------------------------------|-------|-----------------------|
| 3月22日～25日 | 平成23年度全国高等学校選抜自転車競技大会         | TR・RR | 福岡/北九州・熊本/山鹿          |
| 4月4日～8日   | 2012年UCIトラック世界選手権大会           | TR    | オーストラリア/メルボルン         |
| 4月8日      | 第37回チャレンジサイクルロードレース大会         | RR    | 静岡/日本CSC 5kmサーキット     |
| 4月15日     | 2012年全日本トライアル選手権大会            | TRIAL | 愛知/新城                 |
| 4月22日     | チャレンジ・サイクル・トラックレース            | TR    | 未定                    |
| 4月28日     | 第17回ジュニア全日本選手権ロード・レース         | RR    | 岩手/八幡平                |
| 4月28日     | 第81回全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロード・レース | RR    | 岩手/八幡平                |
| 4月29日     | 第15回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース      | RR    | 岩手/八幡平                |
| 5月14日     | 第59回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース   | TR    | 群馬/前橋                 |
| 5月20日～27日 | 第15回ツアー・オブ・ジャパン               | RR    | 堺・奈良・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京 |

## 連盟の動き (1月下旬～2月下旬)

|       |                          |                           |
|-------|--------------------------|---------------------------|
| 1月25日 | 平成23年度第8回広報部会            | 於：東京・日本自転車会館3号館3階         |
| 25日   | 女子ロード合宿                  | 於：静岡・修善寺(～27)             |
| 25日   | 2012年シクロクロス世界選日本代表選手団出発  | 於：ベルギー・コクサイデ 帰国→1/31      |
| 26日   | ジュニア・トラック・アジア選直前合宿       | 於：静岡・日本CSC(～30)           |
| 2月3日  | 第3回ジュニア・トラック合宿           | 於：静岡・日本CSC(～7)            |
| 4日    | アジア選手権トラック日本代表選手団出発      | 於：マレーシア・クアラルンプール 帰国→2/13  |
| 6日    | 第4回ロード合宿                 | 於：千葉・鴨川(～22)              |
| 8日    | 平成23年度第5回広報委員会           | 於：東京・日本自転車会館3号館4階         |
| 11日   | アジア選手権ロード日本代表選手団出発       | 於：マレーシア・ブトラジャヤ 帰国→2/19    |
| 11日   | 平成23年度第3回競技運営委員会         | 於：東京・日本自転車会館3号館3階         |
| 14日   | UCIトラックワールドカップ第4戦代表選手団出発 | 於：イギリス・ロンドン 帰国→2/21       |
| 15日   | 平成23年度第5回総務委員会           | 於：東京・日本自転車会館3号館3階         |
| 18日   | 平成23年度アンチドーピング作業部会       | 於：東京・日本自転車会館3号館3階(～19)    |
| 20日   | ツアーオブニュージーランド女子ロード選手団出発  | 於：ニュージーランド・ウエリントン 帰国→2/27 |



## 日本新記録

## ■ フライングスタート・200m

女子シニア

11秒469 前田 佳代乃

2012/2/18

イギリス・ロンドン

無限の夢へ、走りだそう。

RING!RING!  
プロジェクト

競輪の補助事業



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.188 2012年アジア選手権特集号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/富原忠夫

編集人/塚本芳大

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>

